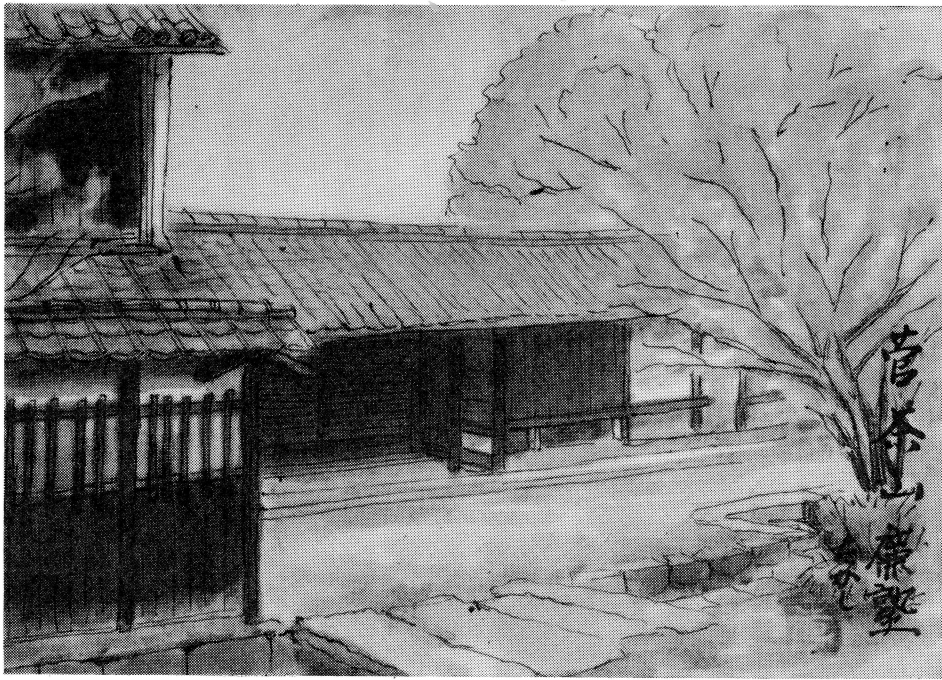


# 菅茶山 顕彰会 会報

第 4 号  
発 行

菅茶山先生  
遺芳顕彰会  
1991年10月10日



画・草浦 孝 本会副会長「神辺町七景」より「菅茶山 廉塾」

## 菅茶山一六五年祭

### の開催にあたって

菅茶山先生遺芳顕彰会

会 長 高 橋 令 之

昭和六十一年に菅茶山先生の百六十年祭を神辺町民はもとより、近隣地域からも多くの方々のご参加をいただいで盛大かつ有意義に実施することができました。そして、諸行事を通して茶山先生の偉大な御遺徳を偲ぶと共に、わが神辺町の古い輝かしい歴史と勝れた伝統に誇りを抱いたものでした。

時流れて本年は、百六十五年祭を迎えることとなりました。

先生没後百六十五年、千変万化の時代をくぐりながら今なおその名声がさん然として存在する先生の偉大な偉業を顕彰し、より一層力強く継承していかねばならないと考えます。と同時に、廉塾を基点として、頼山陽を始め多くの文人墨客が神辺を往来し、備後一円に学問の波紋を大きく漂わせた往時を偲び、わが郷土神辺への理解を深め、愛着を一層傾けることは誠に意義深いことと考えます。

ここに、関係方面各位の御賛同御協力を賜り、百六十五年祭を有意義な事業として参りたいと思っておりますのでよろしくおねがい致します。

更に、百六十五年祭を契機に町民みなさんと共に「文化の町 神辺」の実現に一段の努力をして参りたいものと念じております。